

# 「フィジー的なるもの」の記号的秩序を検証する

緻密で濃密なフィジー社会の民族誌

片岡邦好

浅井優一著

## 儀礼のセミオティクス

メラネシア・フィジーにおける神話／詩的テクストの言語人類学的研究  
2・28刊 A5判516頁 本体5741円  
三元社



フィジーの最高首長の即位儀礼。1972年、植民地期以来、土地と社会集団の所有関係を規定してきた「詩的テクスト」の記号的秩序の継承を、メタラフアナリティクスと儀礼セミオティクスを対照的に分析し、その記号的秩序の継承を論じている。

思想

人類学の周辺で「儀礼」や「詩学」を徘徊する評者にとって、本書との出会いは僥倖であった。冒頭から引き込まれた、フィジー諸島のタワサムという地域で、28年ぶりに開催される最高首長の即位儀礼の顛末だといふ。遠い島の緑もゆかりもない一義式と思ふなかれ。そこにみられるイデオロギー的対立は、変遷する現代社会がどこでも直面する近代と現代の相克の縮図である。そのフィジーの絡まりを紐解くのは言語人類学という視座だ。

やや厳苦しくなるが、本書の立ち位置を確認する意味でその理論的背景への言及が多少必要だろう。日本人による民族誌(エスノグラフィ)は、「人類学は西欧植民地主義の娘である」と喝破したレヴィ・ストロースらの警句を引くまでもなく、人類学が内包する帝国主義的指向の覚醒を経た西欧的視点から書かれることが多い。本書はその思想的な流れを汲みながらも、分析の基盤を北米言語人類学に求める。その嚆矢であるフランク・ポアス(さらにエンドワード・サピア、ベンジャミン・ウォーフといった弟徒弟たち)は、アメリカ構造言語学や言語相対論との関わりで論じられることが多いものの、

ことばが社会組織の礎であるとの認識に立ち、広義の人類学を構成する4分野(考古学および社会・形質・言語人類学)の二つに「言語」を据えた点で、ヨーロッパの人類学と二線を画す。特にその中でも、レヴィ・ストロースの構造人類学と理論的基盤を提供したローマン・ヤコブソン、言語理論と、プラゴマティクスの開祖であるチャールズ・ペーリスの記号論を融合的に発展させたヌーケル・シルバースタイン(など)の思索を敷衍・拡張した小山巨の社会記号論が本分析の基軸となっている。

しかしてこゝには人類学が標榜する普遍性と個別性への希求という二面性、一種の「ダブルバインド」が立ち塞がる。前者が記号論的な一般化とすれば、後者はフィジーを(含む)メラネシア・オセニアにおける人類学・民族誌の集積がそれにあたると。その端緒となったマイニシャル・サーリンズの「王権論」に通底する二項対立的な概念化へと袂を分かち、近年の「存在論的展開」の潮流の先端に、マリリン・ストラザーンの存在論がある。彼女によれば、メラネシアの「人格」は「個人」ではなく「分人」と呼ぶのが相応しく、社会的行為を通じて

達成されてゆく「分割可能な」諸関係の束のような人格であるといふ。本書は、フィジーの「場所」と「歴史」の根底に、この「分人」的イデオロギーが連綿と横たわることを見て取る。

本題に戻ろう。本書はそのような経緯の上に立ち、ポスターマン人類学を超える現代的視座から行われ書かれた「フィジーなるもの」の記号的秩序を、テクニカル化(多様な「テクスト」として創出される過程)という視点から追ったフィジー社会の民族誌である。ただし、社会生活全般を扱うのではなく、首長の即位儀礼開催に至る経過をつぶさに参与観察し、「厚い記述」(モアット)を行うことで、フィジー社会の胚葉を明らかにしよとするものである。その旨趣は、フィジーにおける「公文書」「神話的語」「儀礼」「DVD作成」という4側面の「テクニカル化」における、反復・等価の関係に依拠するヤコブソン流の詩的特性の分析を通じて検証される。

約30年間首長が不在であったという事実、タワサム社会の根幹に関わる問題を体現している。その根底にあるのは、首長位の継承にまつものの空間的(山岳部vs沿岸部)、時間的(過去vs現在)、価値的(真実vs虚偽)な対立の構図であるといふ。その対立は、イギリス植民地政策下で作成された「文書」「一般証言」と「氏族登録帳」が規定する「歴史」と、神話的語りとして伝えられる「伝承」の間の齟齬となって現れる。過去30年間に亘って両者間の「ずれ」を正そうとした試みは、氏族間のわだかまり、

(愛知大学文学部教授)

## 詩と思想 9

好評発売中 定価1300円+税

### 特集 中国現代詩

(評論) 佐々木久春 前川幸雄 林少陽

(講演録) 楊克(作品) 楊克 沈奇

(講演を聴いて) 川中子義勝 武西良和 こたきこなみ

(手をつなぐ世界の詩人たち) 中原道夫

(地域からの発信) 木村孝夫

(詩人論) 高橋玖未子(作品) 奥主榮 舟橋空児

土曜美術社 出版販売 〒162-0813 新宿区東五軒町3-10 電話03(5229)0730